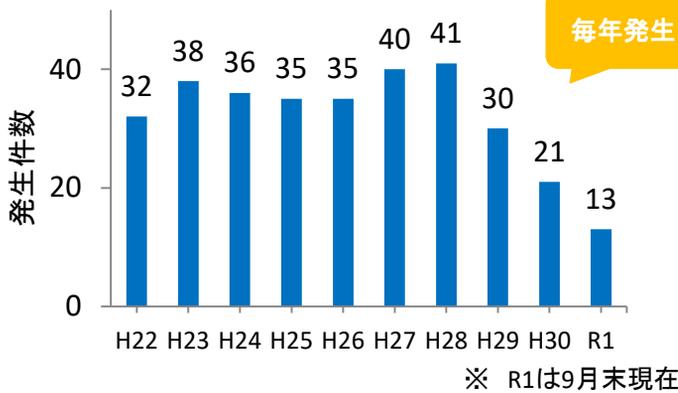


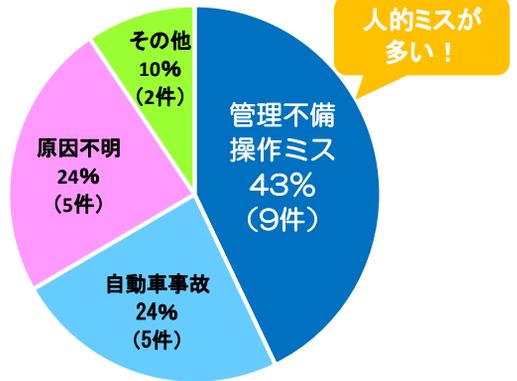
油流出事故を防止しましょう！

事業者や農業者の貯油タンクから油が流出する事故が毎年発生しています。
その**原因の多くは管理不備や操作ミスといった人的ミス**です。

油流出事故件数(環境保全課把握分)



H30年度の油流出事故の分類 (環境保全課調べ)



ひとたび、油が河川などに流出すると、上水道や地下水、農業、漁業等に大きな影響を及ぼすおそれがあります。河川などへ流出した油の回収には、多くの人手やオイルフェンス・オイルマット等が必要となりますが、これらにかかる費用は**原因者が負担**することになります。
こうした事態にならないよう、**貯油タンクを使用する際には必ず点検を行いましょう。**



大きな災害につながるおそれ

(写真1) 油の浮いた河川



オイルマット

(写真2) オイルマットで油を回収する様子



オイルフェンス

(写真3) オイルフェンスを設置する様子

土砂入替費	約400万円
重油吸着マット費	約70万円
油処分・環境分析費 その他現状復旧等費	約30万円
合計	約500万円

高額負担

(事例)タンク配管の腐食等により油が約900L漏洩し、一部が河川に流出した事例

油流出事故未然防止チェックリスト

貯油タンクを使用する際には、以下の項目を確認しましょう！

1 移動タンク（家庭用タンクやドラム缶を含む）

- 給油中に目を離していないか？（荷物の積み下ろし等で目を離した際にあふれ出る事故が多い）
- ふたはきちんと閉めているか？
- 転倒しないように安定した場所に置いているか？

2 地上タンク（農業ボイラー用重油タンク、漁業用燃油タンク、家庭用タンクを含む）

- タンクは固定しているか？（台風や増水時に倒れ、農作物に甚大な被害を与える恐れがある）
- 油を入れる前に、バルブ（元栓）が閉まっていることを確認したか？
- 油の漏洩により、入庫量と出庫量にズレが生じていないか？
- 腐食・老朽箇所を点検・修理しているか？
- 配管、配管接合部及び防護壁の劣化、ひび割れ及び油の漏洩痕はないか？
- 給油ホースが劣化していないか？また、交換を行っているか？
- 施設等に進入防止柵や施錠を行っているか（農業用を除く）？
- 防油堤を設置しているか？
- 暖房機を使用しない期間は、タンクの開閉栓を確実に閉めているか？
- 防油堤内部に貯まった雨水は、定期的に点検し排水しているか？
- 地下配管がある場合、どこを通っているか把握しているか？
- 耕起作業等で配管部分を損傷しないように十分注意しているか？

3 地下タンク（農業ボイラー用重油タンク、漁業用燃油タンクを含む）

- 法定点検はきちんと行われているか？
- 地下配管の漏洩点検は定期的に行われているか？
- 油の漏洩により、入庫量と出庫量のズレが生じていないか？

4 油水分離槽

- 油分の定期回収は行われているか？
- 油分の処理は、産廃業者委託による処分等、適切に行われているか？

5 事故発生時の対応

- 油流出事故においては、発生初期の迅速な対応が拡大を防止するうえで重要であることを従業員等に周知しているか（通報等含む。）？
- 通報、応急措置など、初動体制の確認はとれているか？
- オイルマット、オイルフェンス等の準備は整っているか？
- 緊急連絡網を整備し、目立つところに掲示しているか？
- 日頃から緊急時の対処方法や管理について、従業員等に指導徹底しているか？

もし、油流出事故が発生したら・・・

速やかに、所管の消防署、市役所（町村役場）、地域振興局に連絡してください。
また、流出元の確認や流出防止対策、油の回収等の応急措置を実施してください。

※万一の油漏洩時に備えて、各種（ガソリンスタンド向け、農業向け、事業者向け）保険への加入を御検討ください。